

パフィオペディルムの育て方 (1)

パフィオペディルムは、花の数や葉の模様によって4つのタイプに分けることができます。このタイプごとに栽培管理のポイントも少し違いますので注意して下さい（表参照）。

パフィオペディルムの系統と栽培のめやす

系 統 (咲き方)	種 類	夏の遮光 程 度	冬の温度	
			最低温度	適温(夜間)
無地葉系 (1茎1花)	インシグネ、スピセリアヌム、ヒルス ティッシマム、フェイリアヌム、ピロッ スム	60～70%	5℃以上	10～13℃
無地肉厚葉系 (1茎多花)	ローウィ、ハイナルディアヌム、フィリ ピネンセ、パリッシィ			
斑入り肉厚葉系 石灰岩地産 (1茎1花)	ベラチュルム、コンカラー、ニビウム、 ゴディフロエ、デレナティ	70～80%	10℃以上	15℃
斑入り葉系 (1茎1花)	カロッサム、サクハクリー、バーバツム、 ベナスツム、トンサム			

栽培管理

置き場所

冬期室内で栽培する場合、空気の乾燥を防ぐために、水槽などのケースの中で育てると良いでしょう。冬期の遮光は、レースのカーテン越しの明るさがめやすです。

水やり

生育中は、乾かさないうたっぷり水やりをしますが、冬期は植え込み材料の表面が乾いてから水やりをします。

肥料

置肥は、油粕と骨粉を等量に混合し、親指の頭大に固めたものを3号鉢で1個、または緩効性化成肥料（例：マグアンプKの大粒）を5～10粒与えます。液肥は、やや薄めのもの（例：ハイポネックス1,000倍希釈）を10日に1回程度与えます。砂利植えは、少し多めに与えます。

病虫害の防除

梅雨時に新芽や株元が急に褐色になり腐り始める軟腐病が発生することがあります。風通しを良くすると同時に、予防のために、適用のある殺菌剤を散布します。

支柱立て

花茎が細く軟弱な品種では、花茎の伸長にともなって支柱を添えます。



開花するまでに針金で作った支柱を立てる。ほうっておくと花が下向きに咲く

パフィオペディルの育て方 (2)

パフィオペディルの年間管理表

	5月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
置 き 場 所	戸外(雨よけ)または室内						室 内					
	最低温度10℃～15℃											
日 当 た り (%は遮光率)	50～60%		60～70%		50～60%		30～50%				50～60%	
水 や り	毎日たっぷり											
	やや控えるが乾かしすぎない											
肥 料	● 置 肥											
	液肥月 2 ～ 3 回											
作 業	植え替え				植え替え (夏咲き)				支柱立て			
	植え替え											

植え替え

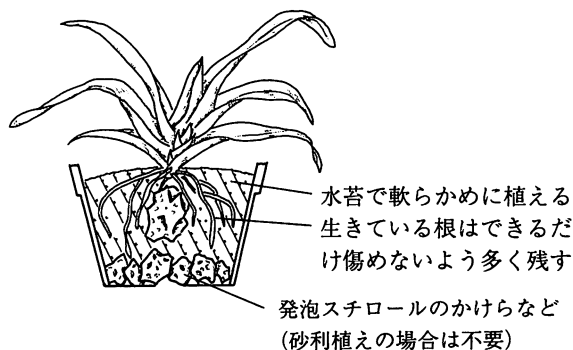
植え込み材料

水苔、砂利などが適します。

植え替え時期と方法

新芽が生長する余裕がなくなった株、植え込み材料が古くなった株は植え替えましょう。植え替えは、3～4年に一度がめやすで、生育の良好な株は、ひとまわり大きい鉢に鉢増しします。

植え方には、水苔植え(素焼き鉢を使う)と砂利植え(プラスチック鉢を使う)があります。水苔は、やや軟らかめに植えます。砂利植えの用土は、硬質の軽石(小～中粒)とバーク(小～中粒)を混合して作ります。



繁殖

大株は、植え替えの時に2～3芽を1株として株分けすることができます。また、株元に種子をまいて苗を得ることもできます。種子は約1年で熟し、その後1年で発芽、苗は3～4年で開花します。

